

# 全国保健師長会 栃木県支部だより

発行  
全国保健師長会  
栃木県支部  
令和4年8月吉日  
第41号



## 支部長あいさつ

栃木県支部長 菊地 幹（栃木県安足健康福祉センター）

日頃より全国保健師長会栃木県支部活動に、御理解・御協力をいただき感謝申し上げます。  
今年度から支部長を務めさせていただくことになりました菊地です。役員一同、力を合わせて支部活動を進めていきたいと思っておりますので、会員の皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

ここ数年、支部総会も書面開催、研修会も中止となり、会員同士が顔を合わせる機会がなく寂しい思いをしておりましたが、今年度は、久しぶりに集合形式での総会・研修会を開催することができました。会員の皆様とお会いすることができ、苔ボトルの緑に癒やされ、エネルギーを充電できたのではないのでしょうか。

さて、今年度の北関東・甲信越ブロック研修は、栃木県での開催となります。コロナ禍でここ数年開催されていませんでしたが、9月3日に県保健福祉課との共催によるオンライン研修を予定しております。後輩育成の役割を担う管理期保健師が、各所属での現任教育に生かしてもらえそうな内容となっていますので、ぜひ御参加ください。

新型コロナウイルス感染症への対応に追われる日々が3年目に突入しました。「WITH コロナ」とは言っても、地域では、長期間の生活環境の変化から様々な健康課題が生じております。活動に制限がある中でもそれらの課題に対して、「住民の健康と生活を守る保健師活動」を周囲に見える形で実践していくことが大切です。

また、身近な地域でいつ自然災害が起こっても不思議ではない昨今、災害や感染症等の健康危機に備えた準備や、社会の動向を見据えた専門性が求められています。

栃木県支部では、管理期保健師自身のスキルアップは基より、所属を超えた横のつながりが持てるよう、交流や情報交換の機会をつくっていきたく思っております。保健師という職種を選んだ仲間同士、まずは自分の心と身体を大切に、バランスを取りながら、楽しくやりがいを感じつつ、少しでも「いい仕事」をしていきましょう！



## 会員及び役員について

〈全国保健師長会加入状況〉

	県(人)	市町(人)	計(人)
平成28年度	51	102	153
平成29年度	49	112	161
平成30年度	47	112	159
令和元年度	44	108	152
令和2年度	45	109	154
令和3年度	41	111	153
令和4年度	41	109	150

※皆様の御入会をお待ちしております

〈役員紹介〉

職名	氏名(所属)
支部長	新 菊地 幹（安足健康福祉センター）
副支部長	新 齋藤澄子（県西健康福祉センター）
副支部長	新 生井明美（下野市役所）
書記	新 太田由希子（県西健康福祉センター）
会計	継 根本力三（那須塩原市役所）
監事	継 杉山佐千子（宇都宮市役所）
本部広報委員	継 鈴木祐美（県障害福祉課）
本部調査研究委員	継 福原 円（小山市役所）
健やか親子特別委員	継 星野典子（県北健康福祉センター）
*北関東・甲信越ブロック理事	継 金子敬子（県衛生福祉大学校）

## コロナ禍における人材育成を考える



令和2年12月、栃木県と市町による新型コロナウイルス感染症に係る保健所業務の支援に関し、「市町職員の保健所への派遣に関する協定」を締結しました。保健所業務支援をとおして、それぞれの立場から感じたことをまとめていただきました。お忙しい中、原稿提供をいただきありがとうございます。



### 新型コロナウイルス感染症における保健所業務支援について

県保健福祉部保健福祉課 長野 泰恵

新型コロナウイルス感染症対策も2年半以上が過ぎました。県では度重なる感染拡大により保健所業務がひっ迫し、その支援として、令和2年12月からは、応援派遣協定に基づいた市町保健師派遣、令和3年1月からは県内看護系の4大学の専門家派遣、令和3年7月からは市町・県OGの潜在保健師派遣等、体制を整えて来たところです。多くの保健師の皆様健康相談、積極的疫学調査、健康観察等の業務に御協力をいただき、この場をおかりしまして深く感謝申し上げます。

慣れない環境の中で、支援には御苦労もあったと思います。しかしながら、保健師の日々の地域活動のネットワークを活かした支援に大変助けられたことやベテラン保健師の健康相談を見聞きした保健所の若い保健師の相談スキルが上がったなど、応援・受援を通じた保健活動の効果も感じているところです。

健康危機管理対応では、平時からの関係機関との連携の重要性が言われておりますが、統括保健師を中心とした保健師同士のつながりの重要性についても改めて実感いたしました。

今回の活動を、是非、今後の地域保健活動の場でも活かしていただき、地域の連携や保健師活動が活性化していくことを期待しています。

#### 【支援実績（令和4年3月末時点）】

事業名	開始年月	支援団体数等	延べ支援日数※
協定市町保健師派遣	令和2年12月	協定締結 14市町のうち6市	619日
感染症対策専門家派遣	令和3年1月	県内4看護大学	317日
潜在保健師派遣	令和3年7月	15人	263日

※1日に2名の派遣があった場合は“2”でカウント

### 保健師同士が学び合える取り組みに

県東健康福祉センター 富田 倫子

新型コロナウイルス感染症の初めての陽性者を県内で確認してから2年半になろうとしています。

そのうち2年間を安足健康福祉センターの圏域統括保健師として、所内だけではなく足利市、佐野市の保健師と一緒に新型コロナウイルス感染症と向き合ってきました。

当初は、得体の知れない新たな感染症に対する強い不安との戦いでした。

「何町の何丁目の住人が陽性だったのか？教えろ」「息子が熱を出した、コロナに違いない、どこかに隔離してくれ」という訴えに、日々振り回されました。

そのうち、住民も少しずつコロナを理解し始め、不毛な不安対応は徐々に減っていったものの、ウイルスの変異により、波が来るたびに発生数は増大し、保健所の業務も恐ろしいほどに膨れ上がり、次々に寄せられる国からの通知を理解しきれないまま、対応が変わり、一緒に頑張っている仲間たちの一番後ろからついて行ったのが実情でした。

そんな私を支えてくれたのは、若い保健師たち、そして毎日健康観察の支援に来てくれていた市の保健師たちでした。

大卒後間もない保健師が、大変な数の相談や疫学調査を経験し、いつの間にか誰よりも新型コロナウイルス感染症を理解し、様々な相談にも生き生きと答える姿を目にしたり。

地域特性をよく知った市保健師の健康観察への対応を聞きながら、健康相談の技術の高さに感心させられたり。市でも重症化予防のために特定健診の重要性を啓発したいとか、ワクチン接種を外国人にも受けてもらえるよう、日本語以外のチラシを作ってみたとか。

健康課題を見つけ、その解決策を見だし、実施する、まさに公衆衛生看護を実践する様子を目の当たりにすることで、私自身がエンパワーメントされることができました。

そんな保健師たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

しかし、このコロナへの対応、いつになったら収束を見るのでしょうか。保健師が疲労困憊しているのも事実です。

皆が明るくお話しできる日が来ることを唯々願っています。



## 新型コロナウイルス感染症業務に携わり思ったこと

県南健康福祉センター 黒岩 幹枝

2020年1月、国内で感染者が初めて確認されてから2年6ヶ月が経ちました。この期間、健康対策課のスタッフ、課長、そして統括保健師として仕事をしてきました。その時の立場で役割は違いますが、保健師として業務に携わる中で感じたことをお話ししたいと思います。

私たちがまず行うことは、医療機関から届出があった発生届出をもとに疫学調査をすることです。相手がどのような人なのか紙の中からの情報しかありません。この時どんなことに気をつけて聞き取りをしていますか。是非コロナの情報だけではなく、その人が今どのような生活を送っているのか、ということも意識しながら聞き取りをしてほしいと思います。そして、必要であればその後の支援に結びつけていくことが必要です。実際にあった例ですが、糖尿病のコントロールが上手くいっていない家族に対して関係機関に情報提供を行い、その後支援が開始となったケースもありました。日頃から関係機関との連携の重要性が言われていますが、保健師同士の繋がり、そして関係機関との繋がりがとても重要だと感じました。毎日コロナ業務に追われている中ではありますが、保健師活動の中でこの繋がりが更に深まるよう若い保健師たちと活動をしていきたいと思っています。

各市町の保健師の方々には、お忙しい中ご支援いただきありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。

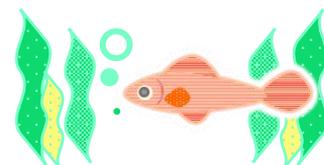


## 保健所への応援派遣をとおして

小山市 福原 円

新型コロナウイルスの感染拡大は、東日本大震災のような災害を想起させ、まさに健康危機管理としての保健師活動が求められている。県への保健師派遣では、業務が逼迫している相手先に迷惑をかけないことを大前提に「指示待ちになることなく、状況判断が迅速かつ的確にでき、また現場の学びを自己消化して自組織に持ち帰ることができる。」という視点から、経験値が高い主査・主任クラスの保健師を人選した。

県での保健活動の経験は、違った角度からコロナ禍を俯瞰することができ、また派遣終了後に、市内全ての保健師にその経験を伝えて振り返りを行うことにより、個々人の学びのみならず、県と市の連携上の課題なども全員で共有することができた。この経験は、近い将来、再度直面するかもしれない健康危機管理に対応する市の保健師の力量形成にも役立ったと考える。



## 新型コロナウイルス感染症の応援派遣を実施して

栃木市 白石 孝江

栃木市では、県からの応援派遣の要請を受け、これまで第3波、第5波及び第6波時の3回、あわせて74日間県南健康福祉センターへ派遣した。

第3波時は専任で1名を派遣したことを受け、第5波時には、より多くの保健師が感染症対策を経験できるよう中堅期以上を輪番制で派遣した。更に第6波時は、経験者との2名ペアを一部取り入れ相談体制をつくり応援にあたった。

今回の派遣にあたり、日頃経験できない感染症対策に取り組めたことは、貴重な経験になったとともに、派遣が効果的に機能するよう事前オリエンテーションや引継ぎの方法等応援派遣の体制について考える機会となった。

また、応援派遣したことが、市として保健師の活動をアピールする機会となり、健康危機発生時の保健師の必要性を認識してもらえたのではないかなと思う。

## 保健所への職員派遣での学びについて

足利市 高橋 輝美

まずは、終わりの見えない新型コロナ業務で精神肉体的に疲弊する中、我々市職員に多くの学びを与えてくださった保健所職員の方々に心から感謝し、私なりに経験できたことをこの場でお伝えしたいと思います。

本市は数年前から水害や林野火災などの災害が続いていますが、災害時の重要な活動の一つに「受援」があります。新型コロナで保健所への職員派遣を開始した際、安足保健所には多くの応援職員がいましたが、皆がシンプルなマニュアルを手に使命を全うしている姿に先ず驚きました。そして、ある災害看護の研究者と本市の災害時健康調査を行った際の「市民と直接話す仕事は応援職員に」という言葉を思い出しました。初回調査や健康観

察は命に関わる重要な業務でありましたが、実際に行ってみると、事実をしっかりと確認し、社会から孤立している療養者のストレスを真摯に受け止めるのは、終わりの見えていない応援職員が行うことで効果があると実感し、今後の本市の受援体制に生かせる経験となりました。

また、保健所での健康観察は、正に地域診断の場でもありました。生活弱者である一人暮らしの高齢者や約五千人が居住する外国人の生活課題、肥満者の重症化などに直面し、その対応として、全ての民生委員向けのコロナに関するリモート研修や外国人が訪れやすい臨時交付金窓口でのワクチンのチラシ配布を行いました。また、「生活習慣病予防がコロナの重症化を防ぐ」として、特定健診の受診勧奨も工夫しました。

私たち市職員が直接応援に行った際の業務は、本当に微力であったと思います。しかし、直接行わなければ実感できなかった市民の健康課題について向き合い、まん延予防を真剣に行うことができたのは、保健所の方々との直接的な交流により成し得たことに他なりません。このことに感謝し、引き続きこの未曾有の事態を乗り越えていきたいと思っています。

## 保健所への応援派遣をとおして

佐野市 感染症対策室

栃木県及び各市町の保健師の皆様におかれましては、令和2年度末から長期にわたり、新型コロナウイルス感染症の対応にご尽力されていることと思います。

佐野市は、感染者の拡大に伴い令和3年1月から安足健康福祉センター業務への協力を行ってきました。

主に電話による軽症者の健康観察の支援をさせていただきましたが、感染の波により感染者数も大きく変化し、ピーク時は、電話をかけてもかけても終わらない状況でした。

健康福祉センターに出向き、直接、陽性となった方から自宅療養状況をうかがうことや、健康福祉センター業務の緊迫感を目のあたりにすることで、数字だけでは分からない管内の感染状況を肌で感じることができました。

また、新型コロナに関しては、市町の役割である感染状況に合わせた情報提供、幅広い年齢層を対象としたワクチン接種等、スピード感が求められる業務であり、庁内一丸となった対応が求められました。

庁内間の調整だけでなく、関係機関との連携を強化するため、医師会をはじめ、歯科医師会、薬剤師会等との情報交換会の機会を設け、情報共有にも取り組んできました。

健康危機に対しては情報や状況が刻々と変化すること、変化に合わせた対応が求められること、一度にやるべきことが重なることなどから、多くの関係機関との連携が必要であり、平時から情報共有を図りながら体制を整備しておくことが重要であると思います。

コロナの波が繰り返されていますが、1日も早く収束することを願いつつ、今回経験したことを次に活かす意識をしながら、また後輩たちにノウハウを引き継ぎながら公衆衛生活動に取り組んでいきたいと思っています。



# 令和4年度 第1回全国保健師長会栃木県支部研修会報告

日時 令和4年6月4日(土)

会場 とちぎ福祉プラザ

講師 花工房ひまわり畑 花育士 板橋 由理氏

参加者 33名

テーマ メンタルヘルスケア講座  
～会員同士の交流と会員のこころの健康のために～「苔ボトル」

## 内容

「苔ボトル」は、ガラスのボトルに数種類の苔や動物等のマスコットを入れ、小さな緑の世界を1年中楽しむことができるものです。

コロナ禍で日々の業務量が増加し、こころも身体も疲れていることを踏まえて、今回の研修には、苔ボトルを仲間と作成する楽しさに加え、完成品を自宅や職場に飾り、癒されてほしいという目的がありました。

また、作成前に板橋先生から、花の陽・陰・中庸についてのお話がありました。陽の花は向日葵、陰の花はデルフィニウム、中庸の花はガーベラやアリストロメリアなどがあり、その時の気持ちに応じて花を選ぶことで、こころの健康を保つことができるそうです。



苔ボトル  
作成の様子

素敵な作品が  
できました

## 参加者の声 (アンケートから)

- ❁ 日々の様々な苦勞を忘れ、無心になり癒された。
- ❁ 集中できた。穏やかな時間が過ごせた。
- ❁ 植物(自然)の効果の話もあり参考になった。
- ❁ また、仕事に取り組む気持ちになった。
- ❁ こころの栄養、リフレッシュできた、こころ癒された 等



## 令和4年度 全国保健師長会北関東・甲信越ブロック研修会のご案内

日時：令和4年9月3日(土) 13時30分～16時

開催方法：リモート形式

内容：① 全国保健師長会活動内容報告

② 講演 「次世代を担う保健師の人材育成と管理期保健師の役割」

自治医科大学看護学部長 春山 早苗氏

③ 座談会 「話そう！保健師現任教育のいま・これから」

